



やりがい・働きがいのある
作業環境を作る!

株式会社 金光組

豊田 健也 さん

Q1.

なぜ伊場さんを採用しましたか。

広島県のアイサポート運動の趣旨に会社として賛同したからです。建設業は障害者雇用が遅れています。当社も建設業として障害者のみなさんにどのようなサポートができるのか、取り組んでみたいと考えたからです。

Q3.

障害者のどのような力に期待をし、伸ばしたいですか。

伊場さんは労働能力が高いと面接のときに感じていて、几帳面な性格だと思いましたので、その段階で、労働能力の維持・向上に期待しました。伸ばしたいところは、とにかく作業を決めて、やりがい、働き甲斐がある作業環境を作りたいと考えています。

Q2.

障害者雇用するまでに障害者と接したことはありましたか。またどのようなイメージを持たれていましたか。

伊場さんを雇用するまでに、会社として障害者と接したことはありませんでした。建設業は危険を伴う作業もあり、現場は作業内容もたくさんあるので、障害者の仕事としては、難しいと当社は考えていました。

Q4.

障害者を雇用してうまくいかなかったことは何ですか。

口頭で指示をして、こちらの思うように伝わらないことがあります。そのためにできるだけ、一緒にやってみせたり、出来上がりのサンプルを作って、「このようにやってください」ということを心掛けるようにしています。



Q6.

障害者雇用について従業員の反応はどうでしたか。

最初の頃は、作業の仕上がり具合や作業スピードを求めすぎて、それに不満があって、自分がやったほうがきれいという感じで我慢できずに従業員が自分でやっていたんですが、時間が経つにつれて本人の能力が分かるようになってくれば、伊場さんのレベルに応じて作業を指示し、スピードを求めないように、時間に余裕をもった配分をするようになりました。

Q8.

障害者雇用をして、新しい発見はありましたか。

会社として伊場さんしか雇用したことがないですが、伊場くんを見て感じるの、労働意欲、意識が高くて逆にこちらの方が見習うべきことが多いと私たちは感じています。



株式会社 金光組

三原市城町3丁目8-23

TEL : 0848-63-1235

HP : <http://www.kanemitsugumi.com>



Q5.

障害者を雇用して困っていることは何ですか。

建設業の作業は小さい作業がたくさんあって連続作業になっています。そのために、空き時間が発生することがある時は、私や社長の業務を止めて、次の作業と一緒に指示することがときどきあります。作業にも種類が多いので、時間が経つと教えた作業を忘れていたりして、他に一から教えることがしばしばあります。

Q7.

障害者雇用するうえで、社会に出るまでにどのような力が必要ですか。

仕事の内容が分からないことが当然なので、言われたことに対して返事、挨拶、報告、連絡、相談をすること、体力を使う作業なので、少し体力があればやっていけると思います。

